

令和５年度 学校評価票（教職員用自己評価）

（学校教育目標） 未来を担う 人間性豊かな 子どもの育成

校訓
自 主 協 同 奉 仕

めざす子ども像
・伸びる学校 ・美しい学校 ・進んで助け合う子
・楽しい学校 ・進んで考える子 ・進んで働く子

	項目	令和４年度 重点目標	評価項目	評価
I	学校組織の充実	学校教育目標達成をめざし、全教職員の協働体制を確立する。 職員の意識改革と業務改善や業務の効率化を推進し、全教職員の意欲と創意を結集した学校運営に努める。	めざす子ども像を共有し、自分の能力や適性が発揮できるように公平に分担された校務分掌に、やりがいを感じている。 ゆとりを持って子どもと向き合い、日々の教育活動の問題点や悩みを、気軽に話せる風通しの良い人間関係づくりに努めた。	B
II	学びの深化	計画・実践・評価・改善による教育活動を推進し、自ら学び、自ら考える児童を育成する。 読書の習慣化を実現し、思考力や読解力を育成する。 意欲的に研修に参加し、教師力の向上に努める。	新しい要素を取り入れたり、指導方法の工夫改善に努め、基礎基本の定着に努めている。 自分が立てた読書目標が達成できるように「読書記録カード」を有効に活用している。 研修したことを、校務や指導に生かすことができた。	B
III	一人一人の個性が活躍する	一人一人を大切にし、ともに生きるための教育活動を創造する。 保護者のニーズを知り、個に応じた最適な支援方法を研究し、人間的ふれあいを密にした支援と指導を充実させる。	差別や偏見のない学級集団づくりに努め、全教科・領域で人権教育の推進に努めている。 保護者や関係機関と連携し、全教職員の共通理解のもと、個に応じた支援方法に努めた。	B
IV	グローバル人材の育成	よりよく問題を解決する力と、生涯学習の基礎となる「生きる力」を育成する。 目標の共有化と地域との協力体制を構築し、国際感覚を養う教育活動の充実に努める。	体験活動や交流活動を通して、一人一人に課題意識をもたせ、問題解決に取り組む時間を十分に与えた指導方法に努めた。 I C Tを効果的に利活用し、情報活用能力の定着に努めた。	B

評価基準 A：達成できた（８５％以上） B：ほぼ達成できた（７０％以上８５％未満） C：十分でなかった（５０％以上７０％未満） D：さらに努力を要する（５０％未満）